

営農情報

2021
8月号 No.104

J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

今月の話題

- ◆ 適期収穫
- ◆ 適正乾燥・調製
- ◆ 異品種・異物混入（コンタミ）防止
- ◆ 購買商品配送およびキャンペーンのご案内
- ◆ 農政ダイジェスト

農家所得増大
"コシヒカリプレミアム88"
チャレンジ!



要件

- みずかがみ（全農基準）・コシヒカリで個袋及びフレコンにて出荷した検査等級が1等の米
- J A自主分析で、整粒80%以上・食味値80点以上の米

病害虫防除所発表
斑点米カメムシ類
発生量 やや多



斑点米カメムシ類すくい取り調査を行いました。今年は県内において全体的に平年に比べ発生量が多く注意が必要です。圃場にカメムシ類を寄せ付けないために適期防除と継続した畦畔の除草を行いましょう。

メモ

✓ 土づくり資材 "田華の豊稲"
注文書8月中旬に配布予定



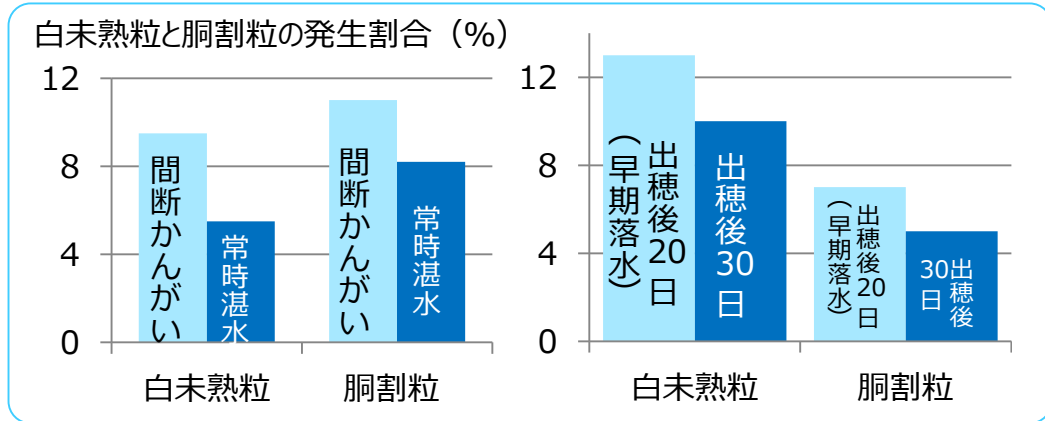
✓ ECO コンバイン油 申込受付中 9/30まで
・ 4ℓ(缶) 2,739円(税込)
・ 20ℓ(缶) 13,178円(税込)



適期収穫

適正な水管理

- 出穂前後各3週間は、品質向上とカドミウム吸収抑制対策のため、湛水管理を実施しましょう。
- 出穂期以降は稲が最も水を必要とする時期です。早期落水は白未熟粒や胴割粒の発生が多くなります。



カドミウムの吸収抑制対策と併せて、乳白粒と胴割粒対策にも
効果大

出穂期

収穫までは土を白く乾かさない

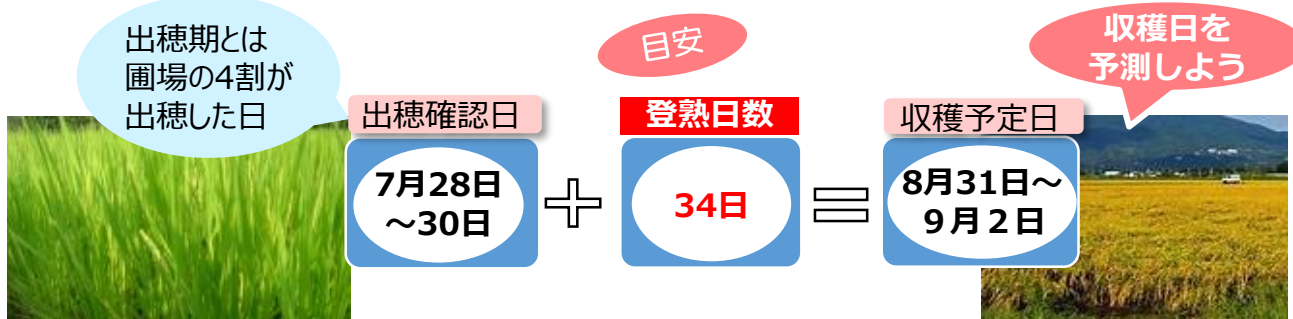
高温下では、品質低下が一層助長されてしまいます。収穫作業に支障のない程度に落水は遅らせましょう。

出穂前後各3週間常時湛水

7月 8月 9月

収穫期の予測と収穫準備

- 出穂期から見る収穫予測 (5月上旬植エコシヒカリの場合)



- 籾黄化率からの収穫予測



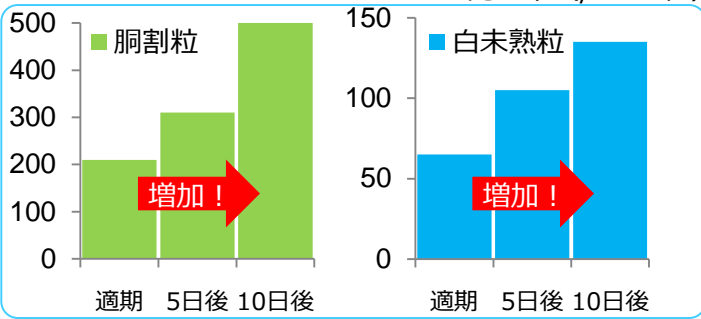
適期収穫のポイント

- 籾黄化率50%程度を確認してから約7日後が収穫の時期です。
- 上から3~4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃が収穫適期です。
- 収穫適期の籾の水分は25%程度です。



刈遅れが玄米品質に及ぼす影響

発生率 (/1000粒)



収穫適期を過ぎると胴割粒・白未熟粒の割合が急増し品質低下につながります。収穫期の予測を行い、天候や面積を考慮し、適期収穫ができるよう計画を立てましょう



適正乾燥・調製

作業上の注意ポイント

- 急激な高温乾燥・仕上げ水分に注意します。
- 収穫後は速やかに乾燥機に入れて半日以上の通風乾燥をします。
- 昼間の乾燥は熱風温度が高くなり、胴割粒が増えるので注意します。
- 毎時乾減率（1時間当たりの水分減少の割合）を0.8%以下に抑えゆっくり乾燥させます。
- 仕上げ水分15%の手前で1昼夜テンパリングを行います。
- 玄米水分が14.5～14.9%以内になるように均一に仕上げます。

【乾燥終了から粳摺り時の水分変化】



乾燥調製時に発生する胴割粒防止に向けた要因と対策

要因 急激な乾燥・均一な水分調整

水分ムラが大きい粳を連続乾燥すると高水分粳は乾燥速度が速く、低水分粳は過乾燥になりどちらも胴割れしやすい。また、乾燥終了後に、未熟粒（高水分粳）からの水分移行により、「水分の戻り」が起こるため、この戻りを考慮して低水分乾燥すると胴割れの発生を促進させます。

技術対策 2段階乾燥（休止乾燥法）技術の活用による「胴割れ防止と水分ムラ是正」

一次乾燥
16.0%～18.0%

乾燥機停止
8時間程度の静止時間
(テンパリング時間)

二次乾燥
仕上げ水分14.5～14.9%

要因 低張り込み以下での循環送風

技術対策 循環による粳の損傷を防止するため、1時間以内とします。

要因 粳摺作業時のゴムロールの締めすぎ

技術対策 脱ぷ率が80～85%になるように、ゴムロールや粳供給量を調整します。

要因 粳摺り供給過多による2度摺り

技術対策 常に、調製後の玄米や供給量を確認しながら粳摺り調製します。



胴割粒

異品種・異物混入（コンタミ）防止

米の販売が、品種銘柄中心となっていることや、JAS法の施行などにより産地から出荷する米穀については「表示銘柄以外の混入のない米穀」であることが必須となっています。
また、異物混入は消費者に健康被害をもたらす恐れがあり生産者に責任が問われることとなります。

異品種混入 防止チェックシート

- 刈取り計画を立てる。
- 刈取り作業の前に圃場ごとの品種を栽培日誌等で確認する。
- 品種が変わる毎に各作業機械およびその周辺の掃除を徹底する。
- 出荷袋の銘柄表示を確認する。



異物混入 防止チェックシート

- 収穫作業前の圃場確認や各作業機械の清掃・管理を徹底する。
- 刈取り前には必ず雑草を抜き取り、石を跳ね上げないように丁寧に刈取る。
- 機械器具や作業所内の点検、清掃をしっかりと行って収穫後の異物混入にも気をつける。

購買商品配送およびキャンペーンのご案内

◆米袋 順次配送中

◆大豆防除資材 8/16～8/25

◆ラウンドアップマックスロード【キャンペーン】 9月～11月予定

上記日程で予定しております。
商品によっては配送先の場所の確保をお願いします。



ひと月の
動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋
～定価（税込）618円 購読申込受付中～

米由来のプラスチックカード登場

(株)研美社(大阪府)は、米由来の国産バイオマスプラスチック「ライスレジン」が原材料の「お米カード」を発売した。ライスレジン、食用に適さず飼料としても処理されずに廃棄されてしまう米をプラスチック加工したもの。フードロス削減や、政府の石油系プラスチック削減目標と焼却時のCO₂排出削減に貢献できる。

JAIに「自己改革実践サイクル」構築求める

政府の規制改革推進会議は、菅義偉総理に「規制改革推進に関する答申」を行った。農協改革は「自己改革の取り組みに満足するのではなく、その取り組みを具体的な成果につなげていかなければならない」として「自己改革実践サイクル」の構築を求めた。

農への多様な関わり方を支援

農水省は「新しい農村政策」と「長期的な土地利用」の在り方に関する2つの検討会の中間とりまとめを発表した。農業者以外も対象とし、多様な人たちが、農業をはじめとした地域資源を活用した仕事を創出し、地方への人の流れを加速化させることで、農村に定住することをめざすという農村政策の方向性を示した。

担い手への農地集積58%に拡大

農水省は、全耕地面積に占める担い手への利用面積が前年度から2万7000ha増加し、シェアは58%となったことを明らかにした。政府の目標は、2023年までに担い手に対し8割を集積することだが、実績とは大きな隔りがある。また、農地中間管理機構(農地バンク)の取り扱い実績は、前年度から4万1000ha増加し、29万5000haとなった。

お知らせ
9月訪問
について

9月はカントリーに勤務しております。
定期訪問にお伺いできませんので、予めご了承ください。

